

第27回 電気システムセキュリティ特別技術委員会
議事録

日 時： 令和3年 9月 6日 (月) 10時00分～11時30分

場 所： 電気学会 webex 会議

出席者： 福井委員長, 山崎 (健) 委員 (A 部門代表), 蘆立委員 (B 部門長), 渡辺委員 (B 部門代表), 森委員 (C 部門長), 澤田 (賢) 委員 (C 部門代表), 村上委員 (D 部門長), 水野代理 (D 部門代表の小林委員の代理), 澤田 (和) 委員 (E 部門長), 瀬戸委員 (2号委員), 横山委員 (2号委員), 芹澤委員 (2号委員), 桂前幹事 (慶応義塾大学・オブザーバ), 藤原氏 (電気学会・オブザーバ), 本庄幹事 (敬称略), 以上15名

配付資料：

- 資料27-0 第27回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事次第
- 資料27-1 電気システムセキュリティ特別技術委員会 委員名簿
- 資料27-2 第26回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事録
- 資料27-3-1 「自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」経過報告
- 資料27-3-2 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」経過報告
- 資料27-3-3 「IoT 普及・拡大に向けたシステムセキュリティ特別調査専門委員会」経過報告
- 資料27-4 令和4年電気学会全国大会シンポジウム課題提案依頼
- 資料27-5 解散報告書ひな型

議事概要

1 開会挨拶

福井委員長より、開会にあたり挨拶があった。

2 前回議事録の確認

資料27-2に基づき、令和3年3月15日に開催された第26回委員会の議事録について最終確認を行った。なお同議事録はメール審議により承認済み。

3 特別調査専門委員会からの活動状況報告

3-1 「自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」(瀬戸委員)

資料27-3-1に基づき、特別調査専門委員会の活動状況について報告が行われた。

特調委員会は予定通り11月末で終了し、技術報告書は特調委員会終了後3～6か月目途で完成、出版することが了承された。

(瀬戸委員) 技術報告書の目次案が決まったことから、年内に執筆・集約、その後3～6か月で校正し、出版したい。本特調委員会は再延長せずに11月末で終了し、その後は整理用の委員会で作業を継続したい。

全国大会シンポジウムでの報告を希望しているが、原稿執筆スケジュールを考慮すると、全テーマを網羅することは困難なため、報告可否について後ほど協議したい。

(福井委員長) 自動車以外の移動手段も報告書に記載することになるか確認したい。

(瀬戸委員) 報告書には、自動車・ドローンのほか、鉄道、航空機、船舶等も執筆する予定である。

(本庄幹事) 出版にあたり予算面の課題があるか確認したい。また、解散報告書は技術報告書出版前の提出となるため、技術報告書の作成メンバや公開時期について解散報告書に記載いただきたい。

(瀬戸委員) 出版社と協議中だが予算面の心配はない見込み。解散報告書への記載事項について了解した。

3-2 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」(横山委員)

資料2 6-3-2に基づき、特別調査専門委員会での検討状況、解散報告書案、技術報告書の執筆状況の報告、電気学会全国大会シンポジウムへの提案が行われた。

なお、前回委員会で提案・承認された報告書の冊子版作成用予算確保については、研究調査会議にて了承済みである旨報告された。

(横山委員) WG2,3 は報告書原稿がほぼ完成、WG1 のみ作成時期が9月末の見込み。このため、9月末で委員会を解散後、12月までに整理用の委員会で報告書の取り纏めを行いたい。

(藤原幹事) 解散報告書でこれまでの成果を整理したが、今後の問題点として、「信頼性」「安全性」「経済性」「利便性」のバランスのとり方は今後も議論していく必要ありと記載。また本委員会成果は、紙ベースに加え電気学会 HP 内の WEB ページにも掲載したい。また技術報告書の内容に沿って全国大会シンポジウムに提案したい。

(蘆立委員) 興味深い内容であり、シンポジウムについて B 部門でも PR したい。今回のポイントは何か。

(藤原幹事) 前回は電子情報通信学会との共催で情報提供のあり方が中心、今回は一般送配電事業者や自家発電事業者へのアンケート結果など、電気寄りの内容となる見込み。

(福井委員長) 部門を超えた共通のテーマであり、技術報告書について広くメルマガで案内してはどうか。

(藤原幹事) web の他、100 冊ほど冊子を印刷し協力いただいた関係者に配布する予定。メルマガについてはご提案の形としたい。

(福井委員長) 今後の問題点に記載された最適解の課題については、今後形を変えて調査専門委員会を継続するほうが良いかどうか、横山委員長のご意見を伺いたい。

(横山委員) 新たな委員会を開くにも大変難しい問題であり、どのような形が良いのか引き続きメンバで議論したい。

(福井委員長) 報告書としていったん取り纏め、今後については状況を見て判断が必要とのご意見と承った。

3-3 「IoT 普及・拡大に向けたシステムセキュリティ特別調査専門委員会」(芹澤委員)

資料2 7-3-3に基づき、特調委員会の活動状況について報告が行われた。電気学会誌4月号に特集記事を掲載することとし、それに伴い2022年3月まで半年間の委員会の延長が提案され、了承された。

(芹澤委員) 9月のC部門大会の公募企画セッションで報告を行うがことに加え、前回委員会での福井委員長のご示唆に沿って、2022年4月号の学会誌に特集記事を掲載したい。これに伴い、特調委員会を2022年3月まで6カ月間延長し、その中で、その後の扱いも議論していきたい。

(福井委員長) 特集記事の掲載について感謝する。半年延長のご提案については、規定以内であり問題ないので了承したい。後継委員会の要否については、これまで通り部門横断で進めるべきか、C部門内で行うほうが良いか、ご意見を伺いたい。

(芹澤委員) 他部門から委員を入れての継続、今回で一旦区切り、C部門内での継続、のいずれも選択肢であり、現状としてはこれから議論を始める段階である。

4 令和4年電気学会全国大会シンポジウムへの対応について（資料27-4）

- ・上記シンポジウムへの提案について協議し、以下の2特調委員会から提案することとした。
- ・自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特調委員会：講演可能なテーマに絞り2時間程度で提案
- ・防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特調委員会：提案どおり3時間の内容で提案

5 その他

（1）解散報告書の扱いについて（資料27-5）

- ・各特別調査専門委員会の終了に伴い提出が必要な解散報告書について、書式と記載例の確認を行った。

（2）本委員会の設置期間について

- ・特別調査専門委員会の終了時期が近づいたことから、本委員会の今後についての意見交換を行った。学会長や上部会議にも諮りながら、引き続き検討を進めることとした。

（福井委員長）本委員会は、東日本大震災を受けて電気学会として社会に発信する目的で、部門を横断する特別技術委員会として設立された。それから10年を経過したことから、電気システムセキュリティの冠称での継続の是非について、忌憚ない意見を伺いたい。

（横山委員）電気学会としてカーボンニュートラルに向けた部門横断的な取り組みがあるか確認したい。

（藤原幹事）大崎会長がカーボンニュートラルを柱の一つとして掲げ、学会HPを立ち上げて各部門・支部の取り組みの掲載を始めた。特別技術委員会を設置する場合、電気システムセキュリティがテーマである本委員会で扱うのは少し合わないという意見がでていた。

（福井委員長）10年間の活動を通じて、電気システムセキュリティとして一定の成果が出たことから、この冠称に一区切りつけ、新たな冠称で始めることも含め、学会長や研究調査会議に伝えていただきながら、引き続き意見交換したい。

（藤原幹事）本委員会には各部門長（理事）がご参加いただいていることから、上部の研究調査会議や経営企画委員会に問題提起し、次回委員会までに議論しておきたい。

（3）次回委員会

- ・次回委員会は3月の電気学会全国大会後を目途に開催することとした。

以上